

請 願 文 書 表 (平成25年3月22日定例会提出)

請願第17号

「横井町の山林」への新火葬場建設反対に関する請願書 (市民環境委員会付託)

平成25年3月5日受理

請 願 者 ●●●●●●●●●●●●●●●●
飛鳥地区自治連合会長
大 西 昇 外9名
紹介議員 植 村 佳 史

(要旨)

奈良市東山霊苑火葬場移転について、これまで市長と話し合いを行ってまいりました。そして、平成24年1月28日には、奈市生第2号で「現奈良市東山霊苑火葬場につきましては、改めて白毫寺地区外への移転を確約申し上げます。」と文書で約束されました。ところが、平成24年9月の定例会において、市長は新火葬場建設候補地については「白毫寺地区も含めて奈良市全体の中で候補地を探していく」と発言され、私どもとの公約を事実上、ほごにされました。そのことについて平成24年10月9日、仲川市長に直接、強く抗議をしました。その折に「今後の移転候補地に、平成21年9月定例会で仲川市長が白紙撤回された横井町の山林は含まれるのか」との私どもの質問に対して、市長は「行政的には白毫寺地区には含まれないと認識している」と発言をされ、事実上「横井町の山林」も候補地に含まれていることに危惧を感じました。

この「横井町の山林」については、平成21年9月11日の定例会において、仲川市長は、「平成19年度末に横井町の山林を新火葬場建設候補地として計画されたが、直後に新火葬場建設予定地の白紙撤回に関する請願書が提出され、その審査を厚生委員会に付託され、3回の慎重な審査を経て再検討の結果、この候補地は当初計画事業費より進入路等のインフラ整備において多額の費用を要することや、今までの地元住民の思いや今後の考え方など総合的に勘案し、市域全体から別の候補地も考えなければならない」と答弁され、事実上の白紙撤回を決定されたのであります。

しかし、そのような経緯があるにもかかわらず、平成24年9月18日の予算決算委員会市民環境分科会での植村議員の質問に福井副市長は、新火葬場建設の移転候補地にその「横井町の山林」も含むと発言され、さらに平成25年2月7日の記者会見で、仲川市長は「横井町の山林」を有力候補地とし一番力を入れていると発表されました。これは「横井町の山林」が過去に「白紙撤回」された経緯や地元住民の思いを無視した言動であると大いに憤りを感じるところであり、以下の3点の理由から「横井町の山林」への新火葬場建設に強く反対いたします。

よって、市議会におかれましては、私どもの意図するところを御賢察いただき、「横井町の山林」への新火葬場建設反対に向けお取り組みいただきますよう請願いたします。

(反対理由)

1. 私たち飛鳥地区白毫寺町連合自治会は奈良市に対し、現在の火葬場が白毫寺町に100年来あることにより、長年にわたりつらい思いをしてきたことを訴え、移転交渉を続けてまいりました。しかし仲川市長はこの3年半、議会から指摘を受けるまで、一度も先進他市の火葬場の行政視察を行わずに、私ども住民には、候補地が10カ所あるとか、ドリームランド跡地にするとか、一たん白紙にした横井町の山林を再度有力候補地にするとか、その場限りの発言を繰り返し、自分の足でみずからが率先して行動を起こさずに、我々地元住民の期待と気持ちを全く理解しようとしないうその言動と姿勢に対して、強い憤りと失望感を感じております。さらに9月定例会での「選択候補地に白毫寺町も含む、含まない」の答弁では、住民から選挙で選ばれた市議会議員への発言と抗議に来た住民への発言は正反対という、いわゆる二枚舌を使ったり、何度も白紙撤回を繰り返す仲川市長をこのまま信用することは困難であり、今後このことに関連した交渉が不可能と判断しました。
2. 現状で1日最高16台の霊柩車とマイクロバス、タクシー等の関係車両合わせて48台が飛鳥地区白毫寺町を通過しますが、新火葬場になりますと、炉の性能が著しくよくなるので、近隣他市からの火葬引き受けも可能となり、白毫寺町を通る関係車両は1日に最高144台になってしまう可能性もあり、なんとその数は3倍に達することも予測され、午前11時から午後4時の5時間の間に、平均約6分に1回の割合で霊柩車と関係車両が通過することになります。これでは飛鳥地区白毫寺町は、お墓と火葬場の町というイメージがますます定着してしまい、将来にわたり私たちの子孫が精神的に苦しみを受け続けねばならないことになります。
3. 交通安全対策について、横井町の山林に新火葬場が完成すると、先進他市の例を見ても周辺には民間の関連商業施設や墓地が建ち並び、彼岸やお盆、年末にはお墓参り等の車両により、ますます交通渋滞や違法駐車が増加するとともに、渋滞回避を目的に狭い住宅内の生活・通学路を抜け道として通過する車両も今まで以上に増加し、地域の高齢者や児童の交通安全確保の対策上、大きな問題が生じることになります。